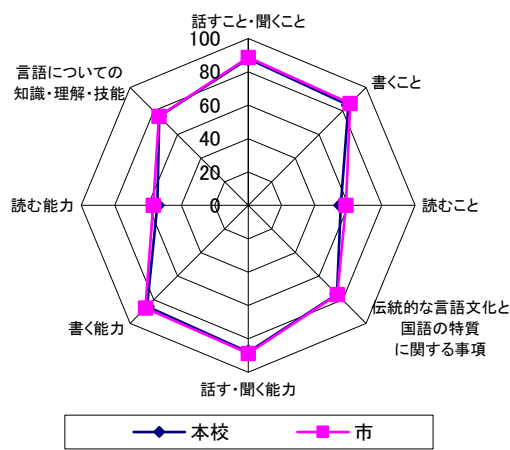


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.9	88.7	89.1
	書くこと	84.9	86.4	64.2
	読むこと	55.4	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	87.9	88.7	89.1
	書く能力	85.7	87.1	66.7
	読む能力	54.4	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

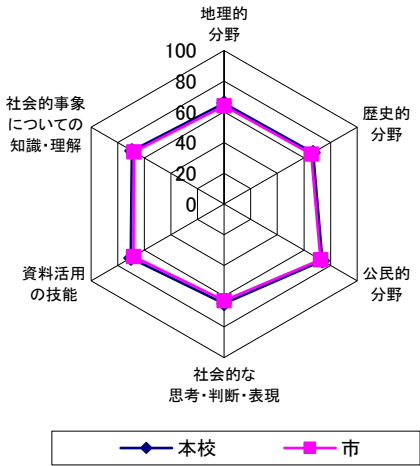
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均よりも0.8%下回っている。話し手の工夫についての聞き取りを苦手とする生徒が多い。	・聞き取りテストでは、メモをとる習慣をつけるよう指導する。 ・意見発表の際には、伝えたい内容・伝えるための工夫を、考えさせる。
書くこと	●平均正答率は、市の平均よりも1.5%下回っている。指定された文字数に到達できない生徒が多く見られる。 ○意見文で、90%以上の生徒がその意見の根拠を書くことができる。	・形式を示し、そこに当てはめて200～300字程度の文を書く練習を繰り返し行わせる。その後、課題を与え、文字数を増やして書かせながら、添削を行う。
読むこと	●平均正答率は、市の平均よりも3.1%下回っている。特に「文章の展開に応じて内容を理解する」問題の正答率の低さが目立っている。	・小論文の読み取りでは、中心となる筆者の主張を見つけ、文章の構造を理解する力をつけさせる。そのために、図やイラストも用いて、丁寧に説明する。 ・小説では、人物描写・情景描写に注目させ、人物像や展開を読み取る練習をさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、市の平均よりも0.2%下回っている。助動詞の文法の働きについての問いの正答率もクラスによってばらつきがみられる。	・漢字の小テストを定期的に行い、単元ごとの漢字を繰り返し身に付けさせる。 ・重要語句を取り上げ、日常の中で使用する場面を与える工夫を行う。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.6	64.0	50.9
	歴史的分野	66.9	65.3	57.1
	公民的分野	73.8	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.8	62.9	52.3
	資料活用 の技能	70.2	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	69.3	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

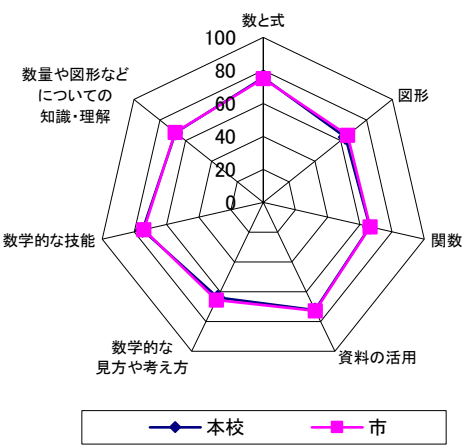
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の平均正答率を1.6ポイント上回った。 ○世界各国のエネルギーに関して複数の資料をもとに判断する問題は、市の平均正答率を5.3ポイント上回った。 ●資料をもとに考察して表現する問題のポイントが他のポイントと比較して低い。	・資料を読み取って考察し、言語で表現する活動を多く取り入れるよう工夫していきたい。
歴史的分野	○市の平均正答率を1.6ポイント上回った。 ○「中世の日本」「近世の日本」での正答率が市の平均正答率と比較して高い傾向が見られた。 ●鎌倉時代や建武の新政などの武家政権に関わる問題のポイントが他のポイントと比較して低い。	・資料を読み取って考察し、言語で表現する活動を多く取り入れるよう工夫していきたい。 ・各時代の政治体制のしくみ、政治体制の比較などの学習を通じて政治勢力の変遷を理解させたい。
公民的分野	○市の平均正答率を1.4ポイント上回った。 ○「わたしたちの生活と現代社会」「人間の尊重と日本国憲法」「現代の民主政治と社会」いずれの単元もおおむね市の平均正答率を上回った。 ●「憲法改正の手続き」や「議院内閣制」についての理解が他のポイントと比較して低かった。	・日本国憲法や政治のしくみなどについて、図を正しく読み取らせるような学習の工夫を図りたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.6	75.0	70.3
	図形	63.5	65.2	63.4
	関数	66.2	66.4	51.5
	資料の活用	72.3	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	63.8	65.5	55.1
	数学的な技能	74.9	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.9	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

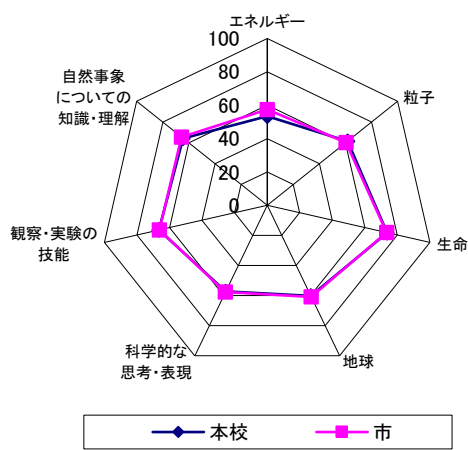
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は、市の平均より0.6ポイント上回っている。全国学力調査（4月の時点）では領域「数と式」は市の平均正答率より1.6ポイント下回っていたが、今回上回ることができた。 ●分母を有理化し、根号を含む式の減法の計算の正答率は3.3ポイント下回っている。また、異なる図形について2つの考え方に共通する考え方を見出し、それを表現する問題の正答率は3.7ポイント市の平均を下回っている。	・今年度、授業開始前5分間の時間を毎時間利用し、計算練習を行う取り組みを行った。生徒にはこの取り組みが定着しており、計算力の向上が図られたと考えられる。今後もこの取り組みを継続し、計算力の向上を図りたい。
図形	○平均正答率は市の平均より1.7ポイント下回っている。全国学力調査（4月の時点）では領域「図形」は市の平均正答率より5.3ポイント下回っており、今回近づくとことができた。回転移動の問題の正答率が80%を超えた。 ●図形の証明意義については正答率が44.4%と低く、定着が図れていない。	・作図、証明ともに基礎力は身に付いてきているが、さらに力を伸ばせるよう、様々な問題に触れさせるとともに、証明の意義や方法を理解できるよう様々な問題を解く機会を増やしていきたい。
関数	○平均正答率は市の平均より0.2ポイント下回っているが、全国学力調査（4月の時点）では領域「関数」は市の平均正答率より3.2ポイント下回っており、今回近づくとことができた。比例の式で表す問題の正答率は90%を超えた。 ●関数を利用した問題についての正答率が50%程度であった。Xの2乗に比例する関数の正答率についても低く、50.7%であった。	・関数の見方や考え方を利用する力が伸ばせるよう、思考力を使う問題を解くとともに、xの2乗に比例する関数の問題演習をたくさん行い、様々な関数についての理解を深めさせる。
資料の活用	○1つのものを選ぶ確率を求める問題では正答率が87%、2つのさいころを使った問題では71%であった。 ●平均正答率は市の平均より0.5ポイント下回っている。相対度数、中央値に関する問題の正答率が70%を下回っている。	・資料の活用の単元についての理解度が低いため、反復演習を行うことで定着を図るとともに、資料を活用する力を身につけさせたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	53.4	57.5	51.6
	粒子	61.7	60.3	53.0
	生命	73.7	73.4	67.9
	地球	60.2	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	57.2	57.7	51.5
	観察・実験の技能	66.5	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	64.5	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

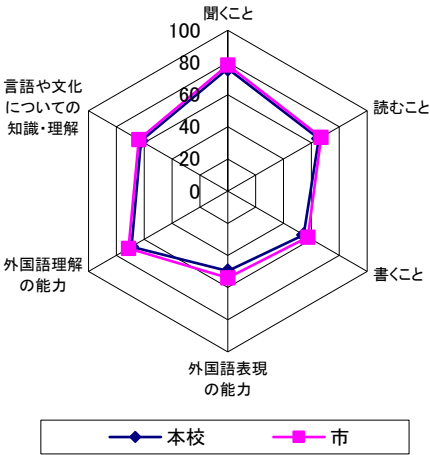
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●エネルギー単元の本校正答率は市の平均を4.1ポイント下回っている。 ○「電熱線の発熱量を求めることができる」では市の平均を3.9ポイント上回っている。 ●「仕事率を求める式を理解している」では市の平均を12.1ポイント下回っている。	・仕事とエネルギーの問題では、正しい知識と実験による体験的な理解が求められる。実験を行いながら、仕事率とは何なのかを意識づける。
粒子	○粒子単元の本校正答率は市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○「水にとかしたときに電流が流れる物質を電解質ということを理解している」では市の平均を6.5ポイント上回っている。 ●「質量パーセント濃度を求める式を考えることができる」では市の平均を2.0ポイント下回っている。	・溶液の濃さを、溶液の質量に対する溶液の質量の割合で表すことで、異なる質量の溶液でも濃さが比較できることを理解させる。
生命	○生命単元の本校正答率は市の平均を0.3ポイント上回っている。 ○「イモリ、ヘビ、ワシが分類できる」では市の平均を4.7ポイント上回っている。 ●「光合成後にヨウ素液で染まる部分を理解している」では市の平均を7.0ポイント下回っている。	・光合成は葉の細胞の中にある葉緑体で行われることを理解し、デンプンの存在と光合成を関連づける。観察結果を写真などで示し、気づきを促す。
地球	●地球単元の本校正答率は市の平均を0.7ポイント下回っている。 ○「結露が起こるしくみについて理解している」では市の平均を4.1ポイント上回っている。 ●「部屋の温度が上がると湿度が下がる理由を説明できる」では市の平均を4.8ポイント下回っている。	・温度と飽和水蒸気量のグラフを用いて、湿度0%、50%、100%と複数の例を示し、理解の定着をはかる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.1	78.4	72.9
	読むこと	65.3	66.9	63.2
	書くこと	54.5	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	49.7	54.0	51.1
	外国語理解の能力	69.2	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	62.4	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●「聞くこと」の校内正答率は、市の正答率を2.3ポイント下回っている。 ○英文の要点を聞き取る問題では、市の正答率をほぼ上回っている。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題では、市の正答率を7ポイント近く下回る問題が1問あった。	・リスニング問題を充実させ、聞かせる回数を増やす。特に、対話の中で、代名詞が何を指しているのかに注目させ、話の流れがつかめるようにする。 ・日々の授業でのウォームアップや導入での英語を増やしたり、ALTとのチームティーチングをさらに充実させたり、生徒が英語に触れる機会を多く設定する。
読むこと	●「読むこと」の校内正答率は、市の正答率を1.6ポイント下回っている。 ○語形・語法の問題は、市の正答率とほぼ同じである。 ●長文の読み取りの問題では、内容をふまえて答える応用問題で間違える生徒が多かった。	・引き続き、基本文・単語・連語などを繰り返し覚えさせ、多くの英文の語形・語法の理解の助けとなるようにする。 ・たくさんの長文読解問題に慣れる必要があるので、教科書以外のさまざまなジャンルの英文を読ませ、Q&AやTorFテストで大意をおさえるとともに、それに関わる細かい読み取りができるようにする。
書くこと	●「書くこと」の校内正答率は、市の正答率を3.0ポイント下回っている。 ○語彙に関する問題では、市の正答率を3ポイント近く上回っている。 ●場面に応じて英文を書く問題では、英語で質問文を作ることができない生徒が多かった。	・引き続き、基本文・単語・連語などを繰り返し覚えさせ、英文を書く力の基礎を身につけていく。 ・場面に応じて肯定文・疑問文・否定文を作る練習を多く取り入れ、書く活動の充実を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で、理解し易さに繋がった。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・時間を意識し、学習に対して落ち着いて前向きに取り組む生徒が多くなってきた。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・課題等は多くの生徒が提出できたが、一部の生徒で毎回期限を守れない状況があった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基本定には次年度も3つの重点的な取組を継続させ、学習の基本的な取組を指導していく。
- ・各教科ともに基礎的なところは身に付いているが、資料や図を見て考察する問題など、応用問題に対してやや課題が見られる。多くの問題に触れさせ、応用力の育成に努めていく。
- ・家庭での学習についての調査より、全学年とも「宿題はきちんとやっている？」は80%を超えているが、「その日のうちに復習している？」は50%前後まで下がる。家庭学習の目的や内容についての指導を充実させていく。